

高校総合体育大会（インハイ）8/5~8/9

岩手県花巻市東和町田瀬って何処？田瀬湖？はいはい、花巻市街地と遠野市のちょうど中間にあるダム湖です。よって交通機関は殆ど皆無と言って過言ではない。だから、観客のためにシャトルバスが出ているのだが、有料です。花巻・新花巻駅から約1時間1000円払って行かなくてはなりません。花巻温泉などと心引かれる土地も有りますが保護者はビジネス・ビジネスかな？乗り合わせのマイクロバスでは自由行動は難しいけど便利なことは間違いない。遠野と言えば『遠野物語』そして、河童の住む所。心洗われる風景が広がっている。一度観光で行って見たい処だ。東北大震災で各競技会場が変更されたものも有ったがボートは当初どおりの場所で落ち着いた。海辺じゃなかったから被害が無かったし、復興のためにもお祭り騒ぎは・・・観光客は必要なのだ。

8月3日早朝の新幹線に乗り込み子供達は出発。居残りの部員と保護者+OB保護者に見送られ、先日返還したばかりの優勝旗と優勝カップを取り戻しに東北グルメツアーに旅立ったのだ。東京駅で東北新幹線に乗り換えれば、直ぐに戸田のボートコースが見える。大宮の次は仙台。秋田・新潟国体に続き今年も仙台からレンタカーになった。仙台・・・とくれば行かない訳にはいかない。仙台名物『太助』の牛タン。腹いっぱい詰め込んだのだろう。

8月4日、レンタマイクロで会場まで50キロ1時間の距離を道に迷いながら1時間半かけて配艇・練習へと出かけた。宿舎と会場との長い距離に先生も閉口気味。ナビゲーター！しっかりしてやあ!!

『このマイクロバス、このナンバープレート『89』、見覚えありませんか??そう、4年前の秋田国体、2年前の新潟国体で使用したマイクロバスです。そしてそれで.....国体4連覇、6連覇と達成してきました。(OBの皆さん、懐かしいでしょ?!)』



縁起の良い話も飛び込んできた。期待してしまうがなあ 笑

8月5日、保護者応援団も岡山を出発した。午後1時半マイクロバスに乗り込み内田父の運転でスタート。運転手要員は後2人居るそうだが、1200キロの道のりをひたすら走り続け明日の朝到着予定とか・・・。ご苦労様としか言いようが無い。無事にたどり着けることを岡山から願うばかり。マイクロで行けるほど人数がいて、しかもまとまって行けるのは凄い。良くぞ仕事が休めたものだ。関心、関心。しかし、私ら19Hの秋田国体に比べたら、ちょっと近いよな。(^^)~

18時間かけて応援団到着。神田正輝似の内田父が一人で運転しきった。

←ご利益が有りそうな仙台のマイクロバス

予選

●レース.15 11:46 3/6

[3組] レン	1	東京都	石鍋 幸太郎(本所高校)	2	3:52.76
	2	徳島県	中島 伽維(徳島市立高校)	5	4:05.88
	3	石川県	坂口 和也(津幡高校)	3	3:55.55
	4	宮崎県	坂元 奎太(宮崎商業高校)	4	4:02.29
	5	秋田県	鎌田 祐麿(秋田高校)	6	4:06.41
	6	岡山県	内田 龍昇(関西高校)	1	3:45.13→準々決勝へ

●レース.23 12:50 3/6

[3組] レン	2	長崎県	長崎明誠高校	5	3:23.20
	3	秋田県	本荘高校	4	3:15.42
	4	岐阜県	八百津高校	3	3:14.89
	5	福井県	若狭高校	2	3:13.58
	6	岡山県	関西高校	1	3:12.37→準々決勝へ

(宮本 山地 角南 田中 守安)

課題が残ったレースだったとコメントが出た。問題が分かって良かったとも。確かにトップタイムではなかった。クオドでは10秒を切っているチームもあった。今後どう変化していくか楽しみにしよう。そして、山の中の会場からは電波の具合が相当悪いようで、掲示板の投稿に時間がかかってしょうがないらしい。気長に結果報告を待つことにする。



盛岡冷麺がこの日子供達の昼食→

←3日仙台で食べた牛タン

8月7日、敗者復活に残る者がいなかった
ので岩手観光して1日を過ごした。掲示板
には・・・こんなことが書かれていた。



保護者は、朝から小岩井農場では大人がしゃぎすぎ、汗びっしょりになり
盛岡名物びよんびよん舎冷麺にありつけず
少しショックでした。
只今平泉金色堂にお参りに行って来ました。
片っ端からお賽銭を入れる人、神様をみたら
拝み倒す人、それぞれの思いをこめ

皆で、関西ボート部の勝利と、
東日本大震災で被災された方のご冥福をお祈りしてきました。
聖なるパワーを、体一杯吸い込み浄化されました。
明日からの準々決勝では、さらにパワーアップして保護者も応援します。
がんばれ関西！ファイトだ関西！

生徒も負けずに観光投稿

こんばんは高木です。今日は観光へ行きました。中尊寺金色堂へ行きみんなで気持ちをリフレッシュすることができました。
昼からつりぼりへ行きみんなで魚を 10 匹釣っておいしくいただきました。宮本君だけは最後まで釣れず、我ら関西が誇る内田さんは開始早々巨大な鯉をつりました。(笑)

保護者の祈りの気持ちと、子供たちのリラックスした OFF。一見、対照的に見えるが内に秘める勝利への葛藤は同じはず。

この日、山田父が単身赴任先の福岡から飛行機で飛んできた。それも函館経由で。とにかく不便な所と印象が強くなるばかりだ。

8月8日、準々決勝 4組 13:58(上り 2/6)

1	鳥取県	米子東高校	6	1:46.89	3:33.29
2	山口県	西市高校	5	1:41.26	3:26.59
3	広島県	宮島工業高校	2	1:38.40	3:20.12
4	岡山県	関西高校	1	1:37.42	3:16.35
5	石川県	七尾高校	4	1:40.64	3:24.92
6	福島県	会津高校	3	1:42.33	3:24.70

500m・1000m トップをキープし続けたんやな。よう頑張った。

5組 14:46(上り 2/6)

1	埼玉県	大石 絢也(南稜高校)	6	1:58.51	4:00.18
2	鳥取県	石畑 祥太郎(米子高専)	1	1:49.22	3:46.53
3	岡山県	内田 龍昇(関西高校)	5	1:54.33	3:58.59
4	岐阜県	大竹 崇寛(東濃実業高校)	3	1:51.83	3:50.34
5	静岡県	鳥居 靖久(二俣高校)	2	1:50.07	3:47.94
6	青森県	金澤 祥吾(むつ工業高校)	4	1:55.00	3:55.12

何があったんや？岡山からでは何も分からん。腹 2 回くらい切ったんかいな？と思っていたが後に聞くとところによると、腹を切ってあせりまくり頭が真っ白になったのだろう。漕いでも漕いでも自分の漕ぎが出来なくなってしまったそうだ。

準決勝 1組 10:20(上り 3/6)

1	福井県	若狭高校	3	1:35.20	3:10.19
2	広島県	宮島工業高校	4	1:33.31	3:10.42
3	富山県	八尾高校	2	1:34.19	3:09.57
4	岡山県	関西高校	1	1:32.96	3:06.49
5	長野県	諏訪清陵高校	6	1:35.96	3:13.47
6	東京都	早稲田大学高等学院	5	1:35.68	3:11.27

この組み合わせ・・・事実上ここが踏ん張りどころ、まるで決勝戦と言ってもいいぞ。

早い早い！だんつつトップで決勝進出を決めてくれた。

決勝 12:50

1	愛知県	旭丘高校	6	1:36.74	3:15.56
2	秋田県	本荘高校	4	1:35.97	3:12.71
3	岐阜県	八百津高校	5	1:36.37	3:12.94
4	岡山県	関西高校	1	1:33.77	3:07.38
5	富山県	八尾高校	3	1:34.68	3:10.94
6	福井県	若狭高校	2	1:35.20	3:09.57

優勝じゃ！！！！
勝ったど〜〜〜！！！！

見事！あっぱれ！選抜が中止になり、朝日レガッタが中止になり、中日本レガッタでは優勝したけれど、全国大会は今年初めてだ。これで『今年も関西は強い』と全国に知れ渡ることになった。

全国大会優勝は遠い岩手まで息子たちの応援に駆けつけた保護者に喜びと感動を与えてくれた。あの感動は経験した者でないと分からない。打ち震える様な喜びが波のように後から後から襲ってくる。レース前のドキドキと息子がミスしたらと不安が襲っていた分だけ勝った時の爆発するような感動は多分自分の人生の中で二度と起こらないかもしれない。泣いて笑って手をたたき抱き合って勝利をかみ締めた。大学で優勝したとしても、一緒に心から喜べる仲間がいないと嬉しさも半減してしまう。保護者全員が気持ちを一つにして

喜び合えるのは関西ならではなのだ。思い出すたびシミジミと、いや泉が湧き出すようにコクン、コクンと胸が疼きだす。この感動をどうか忘れずにいて欲しい。一生の宝物として。

私は仕事で思うまま携帯が開けず、悶々としていた。店主の目を盗んで開いてみると、メールが入っている。何じゃ？誰からじゃ？・・・19・22H OB 保護者の岸本母だ。開けてビックリ、結果が入っている。しかも試合後直ぐの速報が！その後もタイムや優勝報告まで。メールが来ても直ぐには見られない。隙を見ながら覗いて見た。叫びたい気持ちをグッと抑える。でも、顔は自然ににやけて来る。早く仕事が終わらないかなあ・・・

18H OB 保護者の上谷夫妻は予選の応援に駆けつけ、この日も駆けつけようと仙台から車を飛ばしていたが途中、事故による渋滞につかまり 2 時間立ち往生した後、決勝に間に合わないと判断し、仙台で迎えることにした。そう！秋田国体の優勝祝賀会と同じ感じで準備してくれたのだ。回らない寿司屋を貸切り食べ放題の大盤振る舞い。減量でずっとサラダしか食べられない生活を送っていた(?)COX 宮本は爆発するようにトロを頬張った。掲示板の投稿で前夜祭に前沢牛を食べる母に物申したくなるほど我慢していた彼はひたすら食べた。そして、先生は間違いなく酔いタンポになった。

22H OB 保護者から只一人、正宗父も岩手に飛んでいた。余りに遠い岩手には気軽に応援に行けない。代表して現地入りしてくれていた。なかなか出来ないことだ。

関西、ボート 4 人スカルで連覇／総体



ボート男子かじ付き 4 人スカルで優勝し、喜びのポーズを決める関西のメンバー

<高校総体：ボート>◇9日◇岩手・花巻市

ボート男子かじ付き 4 人スカルで関西（岡山）が連覇を果たした。2 位若狭（福井）に 2 秒 1 9 差をつけての快勝。苦手のスタートも「500メートルは絶対ゲットせい」との森川幸夫監督（49）のアドバイス通り、スタートから飛ばしてぶっちぎった。

昨年の千葉国体では、山地冬馬（3年）、角南友基（3年）がメンバー入りしたが、6 連覇中だった岡山県チームは敗れた。山地は「去年は自分たちが迷惑をかけたので、イン

ターハイは勝つしかなかった」と振り返る。岡山市内の旭川で水上練習ができない冬場は、150段ある神社の階段をダッシュで上った。この訓練が、この日のスタートで発揮した瞬発力につながった。

関西のモットーは森川監督が考えた「明るく」「朗らかに」「活発に」の頭文字を取った「あほか」の精神。スタート前、森川監督から「笑っていくぞ」とアドバイスされたメンバーは優勝を決めると、声高らかに校歌を歌いながら栈橋を凱旋（がいせん）した。【松屋圭祐】
日刊スポーツ [2011年8月10日9時43分 紙面から]

男子かじ付き4人スカル 関西悠々V2

北東北インターハイ 第13日

全国高校総体（インターハイ）第13日は9日、岩手県などで各競技を行い、岡山勢はボート男子かじ付き4人スカルで、関西（宮本、山地、角南、田中、守安）が3分7秒38で2連覇を達成。2位の若狭（福井）に2秒以上の差を付ける快勝だった。同ダブルスカルは備前緑陽（野瀬、青山）が4位入賞した。



2連覇を決め大喜びの関西クルー＝花巻市田瀬湖ボート場

2位に大差 「かっ飛んでる」

ボート男子かじ付き4人スカル決勝。関西はスタートダッシュで奪ったリードを一度も明け渡すことなく、1000メートルをぶっちぎった。2位に2秒以上の差を付ける勝ちっぷりに「かっ飛んでるよね」と、森川監督の口調も滑らかだ。

コックスの宮本は2位・若狭（福井）との差が1艇身に広がった中間地点で「勝利を確信した」。主将の山地は、もっと前。「みんなの顔がすごく明るくて、レースが始まる前から勝てると思った」という。

東日本大震災の影響でビッグレースがことごとく中止になり、全国でどれだけ通用するか、選手には不安があった。5月の県総体では過去8年続けてきた全種目制覇を逃し、暗いムードが漂っていたのも事実だ。そんな雰囲気を一変させたのが指揮官のひらめき。普段は細かく指導するリギング（艇の調整）を選手に任せ「好きなように伸び伸びやれ」と伝えた。

悠々と成し遂げた連覇。同種目の全国タイトル獲得はこれで8年連続となる。次の目標は昨年、7連覇を逃した国体。山地は「もっと圧倒的に勝ちたい」。明るく言い放つ言葉は、自信に満ちている。

山陽新聞（2011年8月10日掲載）

高校総体：関西が2年連続3回目V…ボート男子4人スカル



ボート男子かじ付き4人スカルで2連覇を果たし喜ぶ関西の選手（奥）＝岩手県花巻市の田瀬湖で2011年8月9日、石井朗生撮影

全国高校総体（全国高体連、毎日新聞社など主催）第13日は9日、岩手県などで各競技を行った。体操は男女団体、個人の決勝があり、女子団体は秋の世界選手権の日本代表候補になっている1年生、寺本明日香を擁する名古屋経大市邨（いちむら、愛知）が初優勝。女子個人総合は寺本が59.400で2位に3点以上の大差をつけ、種目別の段違い平行棒、平均台、床運動と合わせて個人4冠を果たした。男子団体は市船橋（千葉）が初制覇し、個人総合でも市船橋の野々村笙吾が初優勝を飾った。

ボートは各種目の決勝が行われ、男子かじ付き4人スカルは関西（岡山）が2年連続3回目の優勝。女子同は熊本学園大付が初制覇した。柔道は男子団体3回戦で優勝候補の東海大相模（神奈川）が作陽（岡山）に0-2で敗れた。

◇関西狙い通りぶっちぎりV…男子4人スカル

6艇で争うボートかじ付き4人スカル決勝。関西はスタートから一気に抜け出し、そのまま力強く逃げ切った。「ぶっちぎりで行けた」と満足げな山地。会心の勝利だった。

元々は後半の伸びが持ち味で、スタートは不得手なチーム。だがボートは後ろ向きでこぐため、出遅れると先頭が見えず、焦って本領も発揮しにくい。そこでスタート改善のため、学校近くの神社の石段を駆け上がったたり、短いダッシュなど、瞬発力アップに取り組んできた。狙い通りの先行逃げ切りは、努力のたまものだった。

昨年は高校総体を制したが、7連覇がかかった国体で愛媛選抜に屈した。その時もメンバーだった山地と角南（すなみ）を中心に3年生5人で組んだ今年は、総体の王座は守ろうと使命感に燃え、重圧も抱えた。

それを振り払ったのがチームのモットー「あほか」。明るく、朗らかに、活発に、という意味だ。「去年は未熟だった自分たちの力で勝てたのがうれしい」と角南。心身ともに進化を実感し、誇らしげだった。【石井朗生】

毎日新聞 2011年8月9日 22時25分（最終更新 8月9日 23時17分）

8月9日(水)、仙台を出発し岡山へ帰る日が来た。お土産は優勝カップ・首にかけた金色のメダルと駅で購入した仙台名物。但し、携帯電話をブッ壊し、岩手で機種変しちゃった先生はお小遣いが無くて子供たちの買い物を羨ましそうに見るだけだった。

《東北新幹線内にて》

ちょうど新幹線が埼玉県の浦和あたりを通りがかった頃、うちの○南が「ディズニーランドがある！」と大きな声で言い出しました。なんで浦和にあるんや?!千葉の浦安だろうが!!それを聞いていた後部座席のお姉さんは苦笑していました。彼とは他人のふりです!(笑)

そうそう、浦和は『浦和レッズ』サッカースタジアムが有ります。

岡山駅 21 番ホーム。5 時 45 分を過ぎた頃からワラワラと人が集まりだし、花束やパソコンで打ち出して作った大きな横断幕を掲げたボート部員と多数の保護者・OB 保護者が到着を待っていた。14 号車が停車する辺りで土産話を聞いた。行きは 18 時間だったのに帰りは 22 時間も掛かってしまったと言う。原因は渋滞。また、表彰式の話も角南父から

「若○高校の監督さんが、『お前ら、これで済むと思っただろうな!』って子供たちにも聞こえるように保護者に話しかけてきた」

うんうん。さもあるう、悔しかろう。20H 千葉チームの埼玉インハイも 2 位に甘んじた。いつも関西が立ちほだかっているのだから一言二言何か言わないとおさまらないのかもしれない。小岩井農場で白馬に乗った聖子ちゃん化し話題になった内田母にも OFF の観光はとっても楽しかったと聞いた。誰彼と無く「おめでとうございます」と声を掛けてみた。何せ殆どの現役保護者の顔が分からない、ましてご家族ご兄弟何て誰が誰やら。22H の浅野・佐藤・正宗さんとも喜び合った。感動の沖縄インターハイからもう 1 年経ってしまった。早いもんだねえ。列車がホームに滑り込み、ドアが開いたが、いつまで経っても一般乗客しか降りて来ない。動揺し始めた頃、左手を挙げた森川先生が先頭を切って姿を現すとホームは大きな拍手と「おめでとう」コールが飛び交った。先に降車していた一般人がエスカレーターに向かう足を止め一斉に振り向いた。フフッとほくそ笑む。メダルをかけた選手たちがゾロゾロと降りてくる。優勝報告に続き、先生・山地キャプテン・山地保護者会長の挨拶と『いちば〜ん』の記念撮影・・・暫くホームを占領してしまった。これを凱旋と言わずに何と言う?

前期打ち上げ～国体まで

8月14日(土)、ボート部の前期打ち上げが行われた。インハイ優勝で、祝勝会も兼ねて部員と保護者が盛大にお祝いした。部員は岩手から戻った翌日には甲子園まで野球部の応援に駆けつけていた。初戦(2回戦)は延長12回の投手戦でさよならを決め関西高校自体おおいに盛り上がっている。そして、恒例の新幹部発表もされた。15・16日とOFFを挟み、いよいよ山口国体に向けての練習が始まる。

野球部が奮闘している。練習どころか応援が忙しい。24年振りのベスト8に満足せず勢いに乗って初のベスト4を決めた日にブログに乗ったのは、山地のインハイ優勝感想文だった。題名からして読んだらマズイ事になると覚悟したにも関わらず、思わずポロっ……。岡山駅のホームで山地父にも優勝のお祝いを伝えたが、こんなことが起きてたなんて！

8月19日(金)野球部も準決勝で敗退し、長く熱い関西祭りが終わってしまった。これでやっとボート部も通常の練習に戻れる。秋雨前線が南下を始め、時折秋の風かと感じられる。このまま、猛暑に逆戻りしないで欲しい。

夏休みのメは松山でのランクアップ。国体まで後1ヶ月の正念場だ。甲子園とお盆休みで弛んだ筋肉を復活させに行っただ。ランクアップ明けのOFFを活用して森川先生は大学ボートの聖地『戸田』に全日本大学選手権を見に出かけた。観覧するのかと思っていたら、ジッと見るのに飽き足らず“熊出没注意”と言わんばかりのOBの反応を楽しみながら、遂には伴チャリを始めた。元気だ！！戸田まで来て伴チャリするなんて！2000mを何往復したのだろうか？そして、最終のエイトを見届けてダッシュで岡山に帰っていった。

9/2～山口合宿に参加した。毎度お馴染みになった、県の強化合宿です。先輩方の活躍のお陰で予算が戴ける有り難い物です。台風12号が接近して来るなか、果敢にも台風に向かう様に出発していきました。

案の上、台風には勝てなかった。13年ぶりに岡山に上陸し、そのまま10キロというゆっくりとした速度で北上して行き日本海に抜けて行った。合宿メンバーは水上練習ができずに西市高校にお邪魔してエルゴマシンをひたすら漕いだ。4日最終日の午前中になりやっと水上練習をして岡山に帰ってきた。岡山組は大変だった。艇はいつもの中島から引き上げて行ったが、引き上げ先の民家の空き地もダム放流で水没の危機が迫り避難勧告も出たので3日は昼も夜も艇の移動とBOXの移動で現役部員・保護者のみならずOB保護者(小林さん17H・浅野・佐藤・岸本さん22H)も駆けつけ風雨の中作業した。

相次ぐ床下浸水・避難勧告のニュースにOB保護者も旭川が気になりだした。岸本父母

が車で駆けつけると、中島は非難する為に用意されたバスが停まり、住人が荷物を抱えて乗り込み始めていた。消防車も何台か赤色灯で周りを赤く染めながら停まっている。その中を岸本父が公園に向けて進むと、ヘルメットにライトを着け合羽を纏った完全ないでたちで作業をしていたのは小林父。直に浅野・佐藤父も到着。一人でも人手がいるからと岸本母を車に残して来たが、急遽呼び出し、艇を乗せる馬を運んでもらう。扱ったことがないので、閉じたり開いたりも思うように素早くできない。と後に語るのを聞いた。

このはた迷惑な台風は奈良・三重・和歌山に甚大な被害を及ぼした。死者・行方不明者合わせて 80 名からどんどん増えて行く。京都二条城の壁もはがれた。岡山も南区は床下浸水した地区も有り避難勧告も県内あちこちで発令されていた。13 号と 12 号に挟まれた北海道も雨量が激しくなった。JR 在来線・高速バス・路線バスまでストップし、台風が過ぎ去った日曜も JR 在来線の一部と高速バスは止ったままだった。雨男何て問題じゃない。この異常気象は年々酷くなって行く。天気は左右されないよう甲子園の高校野球もビッグエッグですれば良いのに等と言ってる人もいるとか、そのうち国立競技場もボートコースも室内にすれば何て言い出す人も出てくるかも、マラソンは・・・？笑 森川先生も鯨のフライに負け前歯 2 本を台風に乗せられた。

9/12、OHKの『あっぱれ！ジュニア』『スポーツ・スピリッツ』にインターハイ優勝を果たしたクオドメンバーが出演。私の感想は内容ではなく、「ポロシャツの第一ボタンを全員しっかりと留めていた！！・・・首が苦しそうやなあ。関西の子が制服をキッチリ着てるとこ初めて見たかもしれんなあ。」こんな感じではないです。

山口国民体育大会(10/2~5)

小雨の降る中で、そのレースは始まった。船台が浮かび選手たちがひしめき合うリギング場を眺める対岸の豊田湖畔公園ではオレンジのジャンパーに身を包み湖に向かって祈りを捧げる姿が並ぶ。メガフォンに額を擦りつける様にして必死に願う父親の姿が切なくも印象的だった。今年最後の、3年生にとって高校最後のレースは『アテンション ゴッ!』の響きで火蓋を切った。

9月29日(木)

朝練をした後、10時30分旭川を出発した。かなりモタモタした様で森川先生はご機嫌斜め。それでも、多くの現役・OB保護者に見送られて出発した。平日の10時とあって見送りが少ないと寂しいだろうと駆けつけたOB保護者の中に唯一の男性、佐藤父。となれば、代表の挨拶が回ってきても仕方が無い。私も20Hの見送りに只一人のOBで突然挨拶を頼まれ、しどろもどろに何か話した記憶がある。

山口での宿舎となったのは湯本温泉『ホテル西京』。湯本では一番巨大なホテル旅館で、ボウリング場・カラオケ・ビリヤードルーム・居酒屋・ラウンジと取り揃えている・・・つまり、外には何も無いって事でした。食事は朝晩ともバイキングで種類は豊富にあった。COX以外はあれもこれもと、お皿に乗っけたのだろう。彼らの食いっぷりにホテルの人はビックリ・・・シナカッタ。丁度、同じタイミングでラグビーが来ていた。重戦車の体格の彼らは食べる量もスゴイ！ボート選手なんて足元にも及ばないのだ。ボート場まで30分の距離を毎日移動していると、思わぬ事も起きていた。車の前に飛び出す黒い陰！！鹿が3頭横切り急ブレーキをかけた。危ない、危ない。それでなくても道はクネクネと曲がり山と谷の間を進まなければならない。街灯が無い部分が多く、日が暮れば辺りは真っ暗で普段街中で生活する我々にとって暗い山道は単純に驚きだった。そんな感じで配艇・練習の日々が過ぎた

10月2日(日)

深夜1時2時3時保護者が動き出した。日帰り応援バスは3時に関西高校出発。21・22H OB保護者が乗り込んでいる。国体出場の成年男子保護者も其々乗り合わせて山陽自動車道に乗った。沢山のトラックを追い越しながらも沢山の乗用車に追い越されひたすら進む。追い越していく車のナンバープレートをぼんやりと眺めていると、まるで全てが山口

国体に向かっているんじゃないかと思いはじめ。岡山ナンバーの車に追い越された。一台じゃない、三台くらいに抜かされた。こいつら絶対国体行きじゃろ！？

最初の休憩に宮島 S.A に寄ると、居た、居た。私たちが凄いスピードで抜かして行った犯人集団が。3年保護者応援団がトイレ前の喫煙所に群がっていた。トイレの中から自販機設置所から湧いて来るように集まってくる。甲子園応援で貰った青いジャンパーをまるで示し合せたかのように皆羽織っている。挨拶を交わした後、私たちもトイレと自販機でコーヒーを買って・・・あれっ?もう一組発見。付きフォア出場の安井君のお母さんが中央大学つながりの保護者と二人で休憩していた。次の S.A では誰に会えるんだろうかと楽しみにしながら車に乗り込んだ。

次の休憩は山口に入って、いくらか空が白みだした頃、朝食をとる為に寄った。私は後部座席で死に掛けていた。普段助手席ばかりで慣れない座席、倒せないシートとシートベルトに締め付けられ車酔いしかかっていたのだ。草地・安田母がうどんを食べている側に座ってみたり、朝の清々しい空気を吸ってみたりウロウロしていた。ここにも、やっぱり居ました。21H OB 岡本一家。3人だと応援日帰りバスより安くなる自家用車でやって来ていた。ここを出ると一気に豊田に向かう。駐車場の生涯学習センター、8時に出るシャトルバスに間に合うように走り出した。

山口国体での第一関門が待っていた。調べてきたとおりネックに成りそうな1時間1本のシャトルバス。現役保護者は既に駐車場でバスを待っていた。始発が8時という何とも観客の行動とかけ離れた運行計画にバスを待つ人々はいたるところで不満を口にしていた。早めに到着し列の前方に居た我々はまだしも、1台のバスに取り残されそうな後方にいる人達は不安もいっぱい、岡本父がオレンジの、いや、夏みかん色のスタッフジャンパーのおじさんに詰め寄っていた。頑張れ頑張れと小さな声でエールを送る。だって、スタッフ用のバスは殆どカラの状態でも3台も発車していくのだ。マイナー競技だから観客が少ないとボートを馬鹿にしてんじゃないのかと腹も立ってくる。ま、何とか間に合って良かった。

応援団はのぼりも横断幕も張り終えて準備万端整っていた。会場に着いてから色々寄り道していたので応援バス隊も既にイスを広げておしゃべりに花を咲かせている。私からの差し入れは、久々の『勝ち栗』。今年の商品のネーミングは「勝ち笑い栗」となっていた。スーパーで見つけた時、笑いながらこれだ！と一発で気に入って籠の中に放り込んだ。他にも、出会うことが無かった佐古さんと22H保護者からも差し入れが届いていた。

◆少年男子 舵手つきクオドルプル

予選 A組

順位	県名	チーム名	記録	
1	岡山	岡山選抜	3分 9秒 26	準決勝へ
2	愛知	愛知選抜	3分 10秒 77	準決勝へ
3	福岡	東筑高	3分 15秒 44	準決勝へ
4	山梨	山梨選抜	3分 17秒 69	敗者復活戦へ
5	富山	富山選抜	3分 20秒 75	敗者復活戦へ

木陰から現れてくるのは 500m 辺り。ゴールはまた木に隠れてしまう。自然破壊のように木がばっさり切られた観客席も目の前がすっきりしているだけで、全貌を見ていただくという気遣いは無いのかもしれない。それでも、狭いスペースの中でゴールに向かう艇に付いて行こうと移動しながら赤メガフォンを口に当てて必死に応援するのであった。

◆少年男子 シングルスカル

予選 A組

順位	選手名	県名	チーム名	記録	
1	長田 敦	石川	石川選抜	3分 28秒 69	準決勝へ
2	上野 悠貴	青森	むつ工高	3分 38秒 66	準決勝へ
3	内田 龍昇	岡山	岡山選抜	3分 41秒 33	準決勝へ
4	倉本 篤樹	滋賀	滋賀選抜	3分 43秒 38	敗者復活戦へ
5	井上 和也	大分	大分県選抜	3分 45秒 74	敗者復活戦へ

いきなり長田君と対戦。インハイ優勝者の実力は凄まじいものだ。必死について行こうとするが差は広がるばかり。5つの艇が斜めに綺麗に並んでゴールして行った。

0Bの結果

成年ダブル 龍谷大・安田 日本大・佐藤・・・3着→敗者復活へ
 島根大・箕浦 ……1着→準決勝へ
 成年付きフォア 明治大・草地、小西 }
 中央大・安井 } ……3着→準決勝へ
 日本大・光亦、浅野 }
 N T T東日本東京・大村 ……2着→準決勝へ
 ちなみに

竹内親子	父・シングル	・・・3着→準決勝へ
	姉・付きクォ	・・・4着→敗者復活へ
	妹・付きクォ	・・・3着→準決勝へ

さて、深夜から一睡もせず過ごしてきた保護者は宿泊先へ引き上げる。長門まで1時間。今日から3日間の宴会が続くのだ。山口に詳しい妹尾母が色々と美味しいお店を用意して取り仕切る。私たちは湯本、西京の斜め向かいの旅館に泊まる。この近距離が後々とても便利になる。しかし、早く温泉入って爆睡したいが・・・中々そうもいかない。夕食のフグ・アワビ料理でラージーポンポン。睡魔に耐えながら飲みました。お開きの後、温泉に浸かって布団にもぐると瞬間爆睡してました。

10月3日(月)

朝から観光に行けるのに、OBダブルが残っているからと全員で親より先に準備してくれていた。有り難い事だ。それに比べ OB 付きフォア組は光亦君待望のサファリパークに繰り出した。出発前から楽しみに一人騒いでいたらしい。西京の近くにある大寧寺・豊川稲荷の池にいる鯉に餌をあげたくて、あげたくて騒いでいたとか・・・。生き物大好き少年ですね。ゴキブリだって優しく掬い上げるくらいだし、あり地獄や蟻の行列を1時間見続けられる20歳。その後、秋芳洞を歩き回り帰って来た。

保護者はこんな感じでした。

今日は、敗復のため父兄も山口観光に行っておきました。
 萩城趾に行った後、松蔭神社で必勝祈願をして、道の駅しーまーとで海鮮丼やお寿司、海鮮定食各々、好きな物を注文して食べました。
 魚が新鮮でとてもおいしかったです。
 その後、青海島の遊覧船へ、風と波が高かったので、島一周はできませんでした。
 ここで、○南母がやらかしてくれました。
 船長さんが、良いと言うまで窓は開けないでくださいと言うのに窓を開けたため、後ろに座っていた宮本母、守安母、山地母はびしょ濡れです。ああ～あ。
 港について、イカ焼きとサザエのツボ焼きを食べました。
 皆、よく食べます。
 とにかく、よく笑い、よく食べ楽しい一日でした。
 明日から、応援頑張るぞ!!

そして、私たちは可愛そうな OB ダブル組をどっかに連れてってやろうかと暫く待っていたのだが、竹内さんのサポートをするからと振られてしまい、3人で青海島へ観光船に乗りに出かけた。昼食は港そばの『浜屋』でシラス丼・瓦ソバ・うに釜飯を突き合い、地元の料理で腹いっぱいにもかかわらず夏みかんソフトクリームにかぶりついてしまった。船

乗り場で出会ったのは何と！関西チーム！私と安田母は咄嗟に柱の影に隠れ一便遅らそうか？とアイコンタクト。しかし、草地母が元気良く

「森川せんせ〜い」

と手を振りながら近寄っていった。あらららら・・・気がつかれた以上隠れているわけにはいかない。柱から這い出してペコリと会釈した。先生はともかく生徒とどう接したのか・・・。

「ありゃ、一緒に乗りましょう。」

の一言で決まり。腹をくくる。

乗り込んで直ぐに草地さんと私は写真を撮り始める。ついでに写メも写し投稿してみる。鯨の形の船は後部がデッキになっていて飛沫が掛かるのを覚悟の上で、外で観る事にした。

海女さんが潜って何か採っている。サザエだろうか、アワビだろうか、雲丹かもしれない。波に浸食され珍しい形に削れた岩を眺める。花津浦は観音様の姿に見える岩が有るとかで、どれがそれか分からなかったが、思わず岩に向かってお祈りをしていたら

「何しとんですか？」

と森川先生が話しかけてきた。

「有り難そうな岩があるならお祈りしとかないと・・・。」

と答えると先生も手を合わせてお祈りを始めた。同じ願いとは思えども、私は息子の分もついでにお願いしておいた。優勝はおこがましいので入賞あたりでよろしくと。

さっきまで元気にポーズをとってレンズに笑いかけていた角南君が

「酔った。」

ポツリとこぼす。船は船尾が一番揺れないからと、最後尾のベンチへ座らせた。しかし・・・毎日艇に乗っていても船酔いするんやなあ、デリケートな内臓の持ち主なんだろうか？デリケートな心臓だとは去年から耳に入っていたけど、見上げるようにデカくても可愛いなあ。暫くラグビーの試合観戦で購入した黄色いTシャツが大人しくなった。

船が日本海に出た途端、波が大きくうねり出した。小さな観光船はまともに波を喰らい揺れながら同時に飛沫が舞い上がる。タルフリ洞ではぎりぎりまで船が岩肌に近寄り、赤瀬・筍岩では荒波が岩に砕けていく壮大な景色を見せてくれた。日本海を見渡せば小さな島影が見える。見島、俳優の松方弘樹がマグロを吊り上げたのがこの辺だとか、海の男に変身した森川先生が船のおじさんと話していた。ブロッコリーに負けた差し歯が無いので大きな口を開けられなかったが、草地母がナイスショットでカメラに収めていた。晴れ渡ったいい天気だが、波が荒いので一周はできず赤瀬から引き返す。港の岸壁には多くの釣り人が糸をたらしながら手を振ってくる。着岸間近に船内放送で

「関西ボート部の皆さん、山口国体頑張ってください。」

と、おいでませ山口の嬉しい接客をしてくれた。船から降りると鯨の形をしているだけ有って潮を吹くという。

「写真撮るから、お前らそこに並べ。」

慌てて船会社のおじさんが

「そこは潮を吹いたら濡れますよ。」

と注意してくれたが

「こいつら濡れても構いませんから。」

と強行突破で記念撮影。冷たい海水が子供たちに掛かる。それを撮っていた大人たちにも潮風が海水を運んできた。手も髪も塩辛くなってしまった。

ぞろぞろと車に戻る途中、次の観光船に乗ろうと並んで待っていたのは保護者応援団。一足違いですれ違いに成ったようだ。

「これから何処行くんすか？」

「青海島に渡ってみようかと思ってます。」

「ふ～ん、僕ら昼食ってないんすわあ。これからどっかメシ食いに行って来ます。」

と別れたはずなのに・・・。青海島に渡り『くじら資料館』の駐車場でウロウロしていたら、またまた見覚えのあるバスが入って来たではないか！！昼飯は～？

「食べる所が何も無いんで、来てみましたあ。」

資料館は国体サービスとかでタダだったらしいが私たちは 200 円払った。値段の如く中身はしょぼかったが、くじら祭りに使う鯨のハリボテが外にあると聞いてそこでまたもや記念撮影大会が始まった。鯨の前で、宮本は鯨の口の中から顔を出してとアングルを変えてパシャパシャ撮った。その時、前から気になっていた事を宮本君に尋ねてみた。国体出発前、付きフォアの練習に3年のCOX山田君が乗り込んだと聞いていたので、感想を聞いてみたかったのだ。山田本人はその場には居なかったが何か聞いているに違いない。

「いい勉強になったって言ってました。」

これは、模範解答。

「もっと大きな声出せ！って言われてました。」

「すっげー早かったって言ってました。」

もうちょっと面白い話を期待していたのだが、こんなもんかな。司令塔が大先輩クルーにどんな掛け声をかけたのか興味津々なのだが・・・。親御さんには申し訳ないが彼らと楽しい時間を過ごさせてもらった。

関西クルーと別れた後、旅館に戻る前に行かなくてはならない所があった。お決まりの必勝祈願だ。大寧寺は室町時代、山口を西の京とまで言わしめたほどの栄華を築き上げた大内氏の終焉の地でお墓もある。その隣には豊川稻荷神社もあるので梯子する。関西の優勝と成年付きフォアの入賞祈願。引いたおみくじは『大吉』、大望を望まなければ願いが叶うそうが入賞ってところだから叶うかもしれないと良い気分で宿に戻った。

この夜先生は保護者との宴会に顔を出し、しっかりと飲んだ。山地父が8時過ぎに西京まで迎えに上がり、長門の『うめや』にて明日の準決勝突破を願い盛り上がった。妹尾母の友達が経営しているお店とかで、オムライスが評判のお店。先生もオムライスには食いついた。

当店の人気No.1.『オムライス』(680円)は老舗大阪心齋橋の明治軒直伝の味!続いて人気の『おむらいすランチ』(1500円)は小さなオムライスとハンバーグ、海老フライと豪華なランチ!卵の苦手な方にはハヤシライス(1000円)もおススメです!こだわりは、オムライスのソースはもちろんの事、マヨネーズ・ダシまで手作りです。アイドルタイムが無いので、遅めのランチ、早い夕食の方もお気軽にお越しください!

先生がそっと電話番号が書かれた箸袋をポケットに入れるのを、保護者はしっかり見ていた。そして、お店の名刺まで貰う姿を見た。明日は定休日だがお願いして子供たちにも食べさせてあげよう、と思ったのだろうか。妹尾母はしっかり先回りしてお店の人に頼んでおいた。いくらバイキングの種類が豊富といえども、さすがに子供たちは飽きてきていたのだった。もちろんセレブカレーを朝から食べていた先生はとっくに飽きが来ていた。これからも山口に来た時に通える、お店のレパトリーが1つ増えたと先生は喜んだ。

0Bの結果

成年ダブル 龍谷大・安田 日本大・佐藤・・・2着→敗退
ちなみに
竹内親子 姉・付きクォ・・・・2着→準決勝へ

10月4日(火)

準決勝。昨日一日英気を養って今日に臨む。1着が決勝に、2着が順位決定に進む。クオドは負けられない。シングルも残りたい。

応援席には見かけない顔が一人混じっていた。スーツ姿で、いかにも仕事抜けてきました状態の男性。0Bらしいと保護者から聞いても、一体いつ頃の?・・・聞くのが早い。声をかけてみる。古田さんはH7かH8でNTT東日本の大村さんの同期だと伺った。山口勤務となれば懐かしくて観戦したくもなるだろう。仕事の途中なので大村さんの試合までは残れないが関西の応援をしようと来て下さったのだ。森川先生のこと懐かしそうに「僕は甘栗、甘栗って呼ばれました。」とあだ名まで教えてくれた。相手のことを聞いておいて自己紹介をしてなかった。

「ところで・・・」

と手を向けられて、あらあら失礼しましたと19H保護者の紹介を慌ててすると、

「戦記読ませて頂いてます。涙が出そうになります。」

なぜ涙なのかは聞かなかったが、懐かしさか去年の国体だろうと思ひ

「今年はめでたし、めでたし、で書けると良いんですが。」

と返事をした。

0B保護者も21H箕浦父母兄・22H浅野・岸本母、佐藤父母が加わった。昨日までの寒さとは打って変わって太陽が照りつける。涼しいと思って日傘を持参しなかったのを悔や

む陽気だ。会場のカキ氷はきっとよく売れたに違いない。

◆少年男子 シングルスカル

準決勝 D組

順位	選手名	県名	チーム名	記録	
1	内田 龍昇	岡山	岡山選抜	3分43秒06	決勝へ
2	本間 功将	宮城	石巻工高	3分43秒74	5~8位決定戦へ
3	倉本 篤樹	滋賀	滋賀選抜	3分44秒05	
4	大釋 一揮	岩手	岩手選抜	3分48秒98	

500mで姿を現したときには3番手、2着なら順位決定だ！と応援にも熱が入った。しかし、内田は2着で終わるつもりは無かった。ピッチをどんどん上げていく。凄いぞ内田！応援団の声援は熱を帯びてくる。「おおおっつ——！」の音が響く。一人抜き・・・そしてもう一人抜いたか？抜いたか？興奮の坩堝と化した応援席は結果の放送に耳を傾けるが「レースは成立しました。」の後に続くはずの「着順は・・・」が無い。絶対刺してるって、1着で間違いないよと言いながらも正式発表まで喜べない。ザワザワとどよめきながら放送を待った。暫くして「先ほどのレースの結果を発表します。レースナンバー・・・1着内田・・・」大きな歓声が山の斜面にこだました。驚きと喜びが爆発し内田父母には皆から「おめでとう」の嵐が降り注いだ。

◆少年男子 舵手つきクオドルプル

準決勝 C組

順位	県名	チーム名	記録	
1	岡山	岡山選抜	3分13秒68	決勝へ
2	岐阜	岐阜選抜	3分14秒95	5~8位決定戦へ
3	滋賀	滋賀選抜	3分21秒31	
4	福岡	東筑高	3分23秒63	

何事も問題なく終わったと思ってます。順当に勝ち進んで良かった、良かった。

0Bの結果

島根大・箕浦	・・・1着→決勝へ
成年付きフォア 明治大・草地、小西 中央大・安井 日本大・光亦、浅野	} ・・・3着→敗退
NTT東日本東京・大村	・・・1着→決勝へ

ちなみに

竹内親子	父・シングル	・・・3着→敗退
	姉・付きクオ	・・・4着→敗退
	妹・付きクオ	・・・4着→敗退

さて、子供たちは『うめや』に13時頃オムライスを食べに出かけた。オムライスは内田にとって勝利の味になった。口いっぱい頬張る姿が投稿された。

こんにちわ内田です。

今日は準決勝がありました。

結果は一位で明日の決勝へ行くことができました!

500mまでは3位でしたが、自分自身に集中して、そして自分自身を信じて無心で漕ぎ続けました。ゴールしたとき、最高の嬉しさもあり、驚きも自分の中でありました。

出艇前に森川先生の魔法が効きました!!

そしてオムライスをご馳走になりました。

とても美味しかったです!!

秘密のヤメターまでいただきました!

ありがとうございました。

いよいよ明日は決勝で、高校ボートのラストレースです。

クオドのメンバーと共に一番を狙う気持ちでいきます!!

保護者の方々、明日も応援よろしくお願い致します。

森川先生のコメント

今日も熱い応援ありがとうございました。おかげさまでシングル・クオド共に決勝進出です。

特にシングル内田のレースには感動しました。500mのラップで3位、しかしそこから一気に先行する他2艇を差し、最後はコンマ差で1位でFinish。インハイ3位・5位の選手に勝ったのです。見事に決勝進出を果たしました。誰がこんな熱いレース、そしてドラマを予想したのでしょうか?! 私はゴールした瞬間、泣けてきました。内田は「男」になったのです。片付け後、彼に会った時、私は思わず抱きしめてしまいました。その時の彼の満面の笑みは忘れられません。

明日は...クオド・シングル共に泣いても喚いても高校ラストレース。彼らには「思いっきり楽しめ!」と言うつもりです。

明日も熱い応援よろしく申し上げます。どんな熱い感動が待っているのでしょうか??

他にも『進化した』とか色々内田を絶賛する言葉がOBから、保護者から称えられた。最後の夜は前夜祭とばかりにゴイゴイと飲んだ。先生も一応お誘いしたようだが、別口

に参加していた。内田・宮本父のツイズ敢為の投稿には笑ってしまった。保護者は一人一人応援メッセージを投稿していた。今思うありったけの気持ちを携帯に向かって、いや、その向こうにいる子供たちに向かって発信していた。今年の保護者会は妻が強い！・・・お酒が。父親軍団は総じて大人しく優しい人が集まっており、神田正輝似と言われている内田父なんぞは破れたロースーを繕うのも、壊れたローイングバッグを縫い合わせるのも一手に引き受けていた。豪快な内田母と体育会系でバレーボールをしていたと言う妹尾母と伊藤母は三羽鳥と称され、保護者会の盛り上げ役。っていうかあ、山口では無いが、どっかのホテルを出禁に成りそうなほど飲んで騒ぐのがお上手だった。まあ、とにかく楽しい楽しい応援ツアーをこの一年満喫した。

その頃、森川先生は・・・大谷山荘って知ってる？保護者の泊まってる白木屋グランドホテルの隣ですが・・・。

私たちはこの日、旅館からシャトルバスを乗り継いで会場に出かけていたので帰りはすっかり暗くなっていた。真っ暗な山道で出会ったものは・・・そう、バスの前を鹿が横切ったらしい。運転手が

「今の見ましたか？」

と声をかけてくれたが、前方を見ていなかった。むううう、惜しいものを見逃してしまった。西京前に着くまではずっと前を見続けていたが、ついに鹿を見ることは出来なかった。

そして、先生は夜中 11 時過ぎに明日岡山からやって来る留守番組の為に必要の無くなった OB の ID カードの回収を始めた。OB は明日保護者のいる応援側で共に関西の応援をする事になった。

10 月 5 日(水)

最終日。一年間の締めくくりの試合が始まる。今日も早くから雨の中応援団は準備を整えている。OB の古田さんも連チャンで来てくれていた。22H 正宗父も差し入れをぶら下げて姿を現した。そして、岩手インターハイで大変お世話になっていた上谷さんご夫妻が来場してくれた。遠く仙台からわざわざ来てくれたのには理由がある。上谷父は学生時代初めて出場したのが山口国体でこの豊田湖には特別な思い出があったのだ。知ってました？ボート選手として世界大会まで行くほどのオアーズマンなんですよ。

◆少年男子 シングルスカル

決勝

順位	選手名	県名	チーム名	記録	
1	長田 敦	石川	石川選抜	3 分 26 秒 87	

2	宮崎 真次	岐阜	岐阜選抜	3分32秒30	
3	山口 健太	神奈川	津久井高	3分34秒74	
4	内田 龍昇	岡山	岡山選抜	3分42秒94	4位

このメンツ、どう考えても苦しい試合になるのは明らかだった。500m、3艇並んで現れた中に内田の艇は見えなかった。1艇だけ遅れている。一漕ぎ一漕ぎ重そうにオールを操る。が、これが内田のスタイルの様だ。昨日で全てを出し切ったかのようにも見えなくは無いが、それでも追いつがって行こうと諦めずに進んでいく。彼が遅いのではない。他が早いのだ。それもそのはず、皆ジュニア日本代表なのだから。彼はいつもどおりの漕ぎをしたただけだ。それはタイムが物語っていた。胸を張って喜んで良い結果を出したのだ。おめでとう！内田君！！彼の頑張りに大拍手！！

そして、ついにその時が訪れた。レース10分前、小雨の降る中、ゴソゴソとオレンジのジャンパーに着替え始める。応援団長はデカメガフォンを握り締める。自前で持参したのか緑色の中メガフォンを持つ保護者もいる。そして、甲子園で貰ってきた赤メガフォンを全員が握り締め、いつしか全員が湖に向かってお祈りを始めた。静寂した空気が流れ、ただ静かにその時を待った。

「アテンション、ゴッ」

スタートを切った。今か今かと500m地点を眺める。

「見えてきたぞ！」

「遅れてるっ！！」

いやいや、これからだ。いつも後半追い抜いて行くじゃないか。600mスパートをかけ始める艇も出てきたが関西はまだかけて来ない。早くピッチを上げてくれ———！と心の中で叫ぶ。「漕げ漕げ、関西」の応援が「上げろー、関西」を連呼しだす。愛媛には追いつけそうに無いが、それでも一つ抜き二つ抜いてゴール！したと皆が思い込んだ。その場にいた全員が2位だと信じ込んでいた。

◆少年男子 舵手つきクオドルプル

決勝

順位	県名	チーム名	記録	
1	愛媛	愛媛選抜	3分6秒09	
2	広島	宮島工高	3分8秒98	
3	岡山	岡山選抜	3分9秒08	3位
4	福井	福井選抜	3分11秒39	

呆然とただ立ち尽くすしかない状態でゴール付近を目で追っていた。クルーはいつまでもその場に凍りつくように留まっていた。船台には一番最後にゆっくりとゆっくりと漕ぎ出して戻ってきた。保護者は目を潤ませ今現実起こったことが俄かに信じられない面持ちで、お互いの労をねぎらい合った。山地保護者会長が OB 保護者一人ひとりにお礼とお詫びを言って回りだした。この一年で白髪も増えたような気がする。保護者全員をまとめ、先生との連絡のやり取りなど苦労したのだろう。真っ赤に充血した瞳に溢れんばかりの涙をためて震える声で

「折角来て頂いたのに申し訳ありませんでした。応援本当にありがとうございました。」
頭を下げる姿に思わずもらい泣き。勝手に涙が滲んでくる。お母さん達も涙が止まらないのだろう。息子は出場していないのに妹尾母なんてボロボロ流れ出るのを止められないでいる。私は上谷母に近づき

「残念でしたねえ。」

と声をかけたら

「残念でしたねえ。」

と返事が返ってきた。優勝って本当に難しいものなんだと改めて強く感じた。

口数少なく帰りのシャトルバスに向かい乗り込んだ。前の座席に座る古田さんが慌ててスマートフォンをかざして話しかけてきた。

「3位になってます。広島に負けてます！」

「ええええっ～！！」

スマホを覗き込んだ。本当に3位に成っている。広島・宮工に・・・いつの間に！抜いたと思っていたのに、いつの間に刺されていたのだろうか？追い討ちをかけられた気分だ。携帯にも3位でしたメールが入ってくる。ず————と速報なのに速報が出なかった役立たずの携帯サイトは最後の最後に、えらい速さで掲載していた。コンマ差でも勝ち負けは勝ち負け。文句の付けられない競技なのだから。それでも日本で3番目。立派な戦績には違いないと思う。今年も『チーム関西』には多くの感動を貰った。

ありがとう チーム関西！

ありがとう 山地チーム！

OBの結果

島根大・箕浦 . . . 4位入賞

N T T 東日本東京・大村 . . . 4位入賞

表彰式は14時30分から生涯学習センターで行われた。表彰式の様子は残念ながら出席していないので分からないが、笑顔でクオドの山地主将とシングル内田が表彰台に立ったようだ。東北大震災を気遣って派手なパフォーマンスはしないよう事前に言われていたが、喜びがほとぼしっている内田の頭は弾けていた。何かしたようだ。掲示板には関西チームの選手・サポート・保護者・OB・OB保護者・竹内母・廣江さんと大勢の人からのコメント・メッセージが届き続けた。

関西高 悔しい3位 少年男子かじ付き4人スカル



ボート少年男子かじ付き4人スカルで3位となり、悔しがる関西高＝豊田湖ボートコース

山口国体 第5日

第66回国民体育大会「おいでませ！山口国体」（山口国体）第5日は5日、山口県内各地であり、岡山勢はボート少年男子かじ付き4人スカルでインターハイとの2冠を狙った関西高が惜しくも3位。シングルスカルの内田龍昇（関西高）は4位、ダブルスカルの河田誠矢・野瀬政伸（東岡山工高、備前緑陽高）は6位に入った。

仕掛け遅れ差縮まらず

昨年、国体の連覇が6で止まったボート少年男子かじ付き4人スカルの関西高。栄光の再スタートとなるはずだった山口で待っていたのは、3位という悔しい結末。宮本は信じ難いという表情で「今は負けを受け止められない」とつぶやいた。

スタートで隣のレーンの愛媛に先行されたが、後半勝負と踏んでいた。だが、仕掛けがやや遅れたか、差が思うように縮まらない。終わってみれば優勝の愛媛に3秒近く離され、2位の広島にも届かず「焦ってしまい、自分たちのレースができなかった」と主将の山地は唇をかんだ。

7連覇を逃した千葉国体終了後、メンバーだった角南が「次は絶対勝ってやる」と誓い、並々ならぬ決意で挑んだリベンジの機会。「もう一度魅せつける」をテーマに、快勝したインターハイ（8月）の余韻を早々に振り払って照準を合わせてきたが、実らなかった。

今年のチームはオール3年生。田中と守安は「後輩に託す」。8年連続の決勝進出、表彰台キープはたたえられるべき。森川監督は「力負けだが、よく頑張った。グッドルーザー」とねぎらった上で、言い切った。「またこの舞台に戻ってくる」

勝負にこだわり全力で追い上げ 内田

ボート少年男子シングルスカルの内田は堂々の4位。「順位は気にせず、最初から思い切っていた」と全力を出し切ったレースを振り返った。

決勝進出4人のうち、あとの3人は世界ジュニア選手権の日本代表。さすがに大差を付けられたが、ゴールを過ぎるまで懸命にこぎ続けた。

今夏のインターハイは準々決勝敗退。ここから目の色が変わった。チームメートにライバル心を燃やし、日々の練習から勝負にこだわった。「見返してやる」と臨んだ今国体。前日の準決勝は森川監督に「鳥肌が立った」と言わしめるほどの追い上げを見せ、インターハイ3位と5位の選手を見事に抑えた。

晴れの決勝を経験し「正直ここまできるとは。自信になりました」。今後の競技人生の大きな糧となったようだ。

(2011年10月6日山陽新聞掲載)

3年生はサポートにまわり、高校ボート生活に終わりを告げた。森川先生はカラータイマーを充電し、また次のシーズンを駆けていく。

がんばれ 森川先生

がんばれ 勝山チーム



完